

いわて復興だより

がんばろう！岩手 つながろう！岩手

三陸復興

第91号

平成27年9月1日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

気温が一気に下がり、猛暑となった夏の終わりを告げるように秋の気配を感じる今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

“復興への決意”を新たに夏の成人式が開催されました

田野畑村

平成27年8月15日（土）、田野畑村の成人式がアズビホール（田野畑村和野）で開催されました。

同村では、帰省時期のお盆に合わせて成人式を行っており、今年度は新成人42人中36人が出席しました。

式典で石原弘村長は、新成人に「若い力を発揮し、ふるさとの復興と発展に寄与してほしい。」と呼びかけました。

また、新成人を代表し、佐藤由季也さんが「数年後、田野畑村の復興・開発に携わるようになった時に、田野畑村の未来を背負うだけの力量と責任感を持ち合わせた人材になれるよう精進してまいります。」と二十歳の誓いを述べました。

式典後、新成人は「はたちの船」と名付けた観光船に乗船し、断崖の景勝地として知られる北山崎へのクルーズに出発。久々に会う旧友らとの会話や記念撮影などを楽しみながら、雄大な故郷の姿を眺め、地元への想いを新たにしていました。

「はたちの船」は、東日本大震災津波があった平成23年は中止を余儀なくされましたが、平成24年、25年は小型漁船「サツパ船」を使って行われ、昨年からは、運航を再開した「北山崎断崖クルーズ観光船」で行われるようになりました。

岩手県内では、同日、10の市町村で夏の成人式が行われ、およそ1,100人が大人の仲間入りをしました。



成人式の様子（写真提供：田野畑村教育委員会）



「はたちの船」で北山崎クルーズを楽しむ新成人（写真提供：田野畑村教育委員会）



未来の夢を託した「タイムカプセル」を開封！

宮古市

平成27年8月15日（土）、旧田老町（現：宮古市田老地区）の閉町記念タイムカプセル開封式典が、旧町役場の田老総合事務所前で開催されました。

このタイムカプセルは、平成17年6月に宮古市・田老町・新里村の合併に伴う閉町の記念として、当時、田老地区の小中学生だった413人が“田老町への想い”をテーマに絵画や作文を作成し、埋められたものです。

今回の式典は、当時の小中学生だった生徒が企画・運営。およそ120人が参加しました。

東日本大震災津波の犠牲者に黙とうを捧げた後、実行委員長の清水徳喜（のりき）（当時田老一中3年）さんは「震災で思い出の品々をなくした人も多くいます。この作品が貴重なものになることを願っています。自分自身を

振り返る良い機会にしてほしい。」と挨拶しました。

その後、実行委員らは、土の中に埋められた直径約60cmのカプセルを掘り起こし、カプセルの中身が披露されると、参加者からは大きな拍手が起こり、当時の想い出に触れる一日となりました。

写真提供：宮古市



タイムカプセルを掘り起こす実行委員



掘り起こした作品を手にする参加者



「e!いわて（いわてつながり情報局）」は、復興に関連する岩手のニュースや情報を知ることのできるアプリです。

入手した情報はTwitterやFacebookに投稿しシェアすることができます。

以下のOSを搭載したスマートフォンでご利用いただけます。

・Android OS4.0以降、iOS6.0以降

詳しくは

いわてつながり情報局

検索



復興と追悼の祈りを含め、沿岸各地で一斉に花火を打ち上げ

野田村・田野畑村・宮古市
大槌町・釜石市・大船渡市

平成 27 年 8 月 11 日 (火)、「LIGHT UP NIPPON (ライトアップニッポン) 2015」が開催されました。

これは、東日本大震災津波の犠牲者の追悼と復興の祈りを含め、岩手・宮城・福島の前 3 県で一斉に花火を打ち上げるもので、岩手県では、野田村・田野畑村・宮古市・大槌町・釜石市・大船渡市で開催されました。

イベントは「東北を、日本を、花火で、元気に。」をスローガンに平成 23 年から始まり、今年で 5 回目。

当日 3 県各地では、午後 7 時から音楽家・坂本龍一氏作曲の公式テーマ曲「赤とんぼ」に合わせて、計約 1 万 5 千発の花火が打ち上げられ、夜空を飾りました。



宮古市の会場に飾られた「田老夢灯り」
(写真提供：宮古市)



野田村で打ち上げられた花火
(写真提供：野田村観光協会)

釜石港・コンテナ取扱量が好調 ～岩手県内の過去最高記録を更新～

釜石市

釜石市は、釜石港の平成 27 年のコンテナ取扱量が 8 月 10 日時点で、3,364TEU(1TEU=20 フィートコンテナ 1 個)に達し、岩手県内の過去最高記録(平成 25 年宮古港：3,315TEU)を更新したと発表しました。

平成 14 年からコンテナの取り扱いが始まった釜石港は、震災後の平成 23 年 7 月、香港の大手海運会社・東方海外貨櫃航運公司(OOCL)のコンテナヤードに指定され、週に 1 便「釜石港」と「京浜港」を結ぶ『国際フィーダーコンテナ定期航路』が開設されました。

内陸部の国際貨物の他、三陸沿岸の水産貨物の取り込みにも成功を収めると同時に、今年 3 月から 7 月までの間、同市内片岸町内のがれき仮置き場跡地で発生した建設発生土をコンテナ輸送したことも取扱量増加の背景となりました。

釜石市は、整備が進んでいる東北横断自動車道釜石秋田線や三陸沿岸道路の利便性を生かし、今年 5,000 TEU のコンテナ取り扱いを目標に荷主企業等を開拓するなど、岩手県の物流拠点を目指しています。



コンテナの積み降ろしが行われる釜石港

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。第 43 回目は、桑野 祐一さんを紹介します。

PROFILE

東京都練馬区出身。

IT 関係の仕事に携わる中、東日本大震災津波を機に平成 24 年春から大船渡市でボランティア活動を行い、同年 10 月に大船渡市に移住。NPO 団体に所属した後、復興関連の仕事に携わる。

平成 27 年 1 月より、株式会社シー・フロントが運営する屋形船「潮騒・しおさい」のクルーとして勤務。

地元の人によるまちづくりへ

震災を機に、平成 24 年春、ボランティアとして大船渡市を訪れた桑野さんは、同年 10 月、NPO 団体に所属し大船渡市に移住。現在は、屋形船「潮騒・しおさい」のクルーとして大船渡市の魅力を発信しています。

大船渡市で暮らす中、復興について「復興の意識は人それぞれ違うと思います。元通りにな

未来の さんりく びと

株式会社シー・フロント
屋形船「潮騒・しおさい」クルー
桑野 祐一
(くわの ゆういち) さん



桑野さんからのひと言：
根をはる

ることを復興とを感じる人もいれば、新しい街になるのが復興という人もいます。今はまだまだ支援の力が必要だと思いますが、徐々に地元の人たちの力によるまちづくりが必要な頃だと感じています。」と語ります。

大船渡市を自分の“ふるさと”として

「東京で生まれ育った自分には“ふるさと”という意識がなく、“ふるさとがある”ということをうらやましく思っていました。大船渡市に移り住み、都会にはない充実感があります。大船渡市は自然豊かで食べ物も豊富。人も良く、とても良い街だと思います。今勤務している屋形船は川ではなく海で運航しているところが魅力。地元の人にとっては震災にあった海は辛いものかと思いますが、海を使った観光や自然を使った観光を少しずつ増やしていくことで、人に来てもらうきっかけが作れると思います。大船渡市は自分が“根をはる”場所。」桑野さんの地域への想いは、大船渡市の復興の牽引役になると期待されます。

岩手県の被害状況

平成 27 年 7 月 31 日現在

- ▶人的被害 死者(直接死)：4,672 人 行方不明者：1,129 人
- ▶建物被害(住家のみ、全半壊) 26,164 棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成 27 年 7 月 31 日現在

- ▶義援金受付状況 約 183 億 9,363 万円 (91,786 件)
- ▶寄付金受付状況 約 196 億 8,701 万円 (7,409 件)
- ▶いわての学び希望基金(※) 受付状況 約 76 億 3,778 万円 (15,924 件)

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!! <http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第 91 号 平成 27 年 9 月 1 日号 企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス

【次回のいわて復興だよりについて】次回は 9 月 15 日号の発行を予定しています。